

Garrard 401 の再構成(7)(HP 収載)

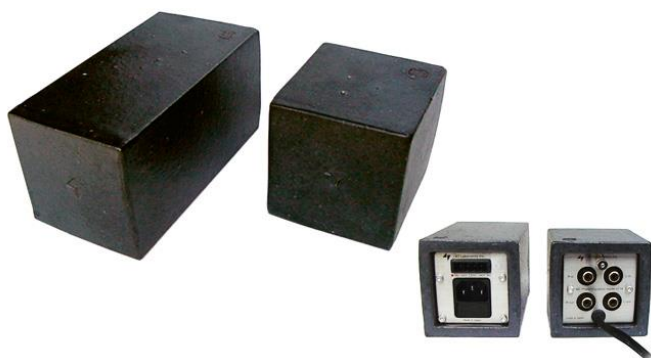
—フォノイコライザーの交換—

1. はじめに

Garrard 401 の再構成を機会に Garrard 401 のフォノイコライザーを替えてみます。

2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

今回使用するのは、MC ダイレクト入力の 47 研のフォノイコの 4718 信楽ですが、これについては [Garrard 401 の整備\(7\)](#) で ZYX R100-EX との組み合わせで使用しています。今回、カートリッジを Ortofon SPU Royal N として、4718 信楽との組み合わせで試聴します。



3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

Ortofon SPU Royal N と 4718 信楽との組み合わせで試聴した結果、まず分かることは、ハムらしいノイズをさほど感じないことです。それでもボリュームを上げるとノイズレベルが上がりますが、フォノケーブルのアースを外すとノイズレベルは下がります。さらに、アイソレーション電源ボックスのシャシーアースもとってみました。これはさほど効果はありません。

[Garrard 401 の整備\(7\)](#) で ZYX R100-EX との組み合わせで、すっきりとした音になると報告していますが、SPU Royal N との組み合わせでも同様です。

すっきりとしてはいるものの厚みや重量感に乏しいところがありますので、本体と電源の躯体をしっかりした台の上に自作のインシュレーターを介して載せ、さらにフォノケーブルの入力部にアモルメットコアを通してみました。



このことにより、すっきりと抜けが良い上に、音の厚みも出てきました。
この状態で、いろいろ音源を替えて聴いていきました。
バロックアンサンブルでは、通奏低音が明瞭に聴こえるようになり、低域がしっかりしてきましたので、これまでの SPU Royal N の神経質なところが緩和されています。ピアノは全体域にわたって打鍵の芯がしっかりして和音の響きがよくなっています。大編成オーケストラでは、分離がよく鳴ると同時に各パートパートが明晰になっています。ボーカルもニュアンスが豊かになりました。

4. まとめ

4718 信楽は、トランスと iPhono の組み合わせよりハムノイズのレベルが低く、ボリュームをあげやすいメリットがあります。さらに置き方やアモルメットコアの使用で、抜けがよく厚みもあって、フルオーケストラ再生のパフォーマンスもよくなる結果になりました。当面、Garard 401 では、Ortofon SPU Royal N と 4718 信楽の組み合わせで聴いていきます。

以上